

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677100150
法人名	社会福祉法人 以和貴会
事業所名	老人グループホームさくら通
訪問調査日	平成21年4月20日
評価確定日	平成21年6月30日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日平成21年4月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4677100150
法人名	社会福祉法人 以和貴会
事業所名	老人グループホームさくら通
所在地	〒893-1604 鹿児島県鹿屋市串良町下小原3103-2 (電話) 0994-62-8887

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成21年4月20日
評価確定日	平成21年6月30日

【情報提供票より】(21年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年2月1日
ユニット数	1ユニット
職員数	10人
利用定員数計	9人
常勤	10人
非常勤	1人
常勤換算	9.37人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建て

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800円		

(4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	2名	要介護2		3名		
要介護3	2名	要介護4		1名		
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	88歳	最低	80歳	最高	99歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	かのや東病院 宮地胃腸科外科 桜ヶ丘病院 池田歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

穏やかな環境の広大な敷地に母体法人の福祉施設が存在し、その一角に当ホームはある。名称どおり桜のイメージを漂わせる明るい建て物で開放感のあるつくりになっている。玄関前の広い芝生の庭ではランドゴルフや散歩、ゲームなどデイサービス利用者とともに楽しんでいる。夜間は夜勤者と当直者を配置、また医療連携体制も取って、安全面に力を入れたホームとして利用者、家族は安心した生活を送っている。職員はなじみの関係や信頼関係を築く努力を重ね、利用者が安心して生き生きと暮らせるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘の研修参加について、外部研修は年間研修計画を作成し、職員の経験や役割など段階に応じた研修に臨めるよう配慮している。研修参加者は研修報告し、全職員共有している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	朝のミーティングや空き時間を利用して全職員が自己評価に取り組む。取り組んだ結果、改善課題が見えてきて職員の努力目標に繋げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は利用者・家族代表、民生委員、地域包括センター、介護支援専門員の参加を得て2ヵ月に1回開催している。事業所報告、利用者の日常報告、外部評価結果のコピー配布などを実施している。会議で出た意見はサービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置している。相談・苦情受付担当者や第三者委員を選任し、重要事項説明書やホーム内に明示している。運営推進委員会議で活発に意見が出され、それを運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。利用者と回覧板を届けたり、地域集落の運動会、デイサービスでの交流、小中学校の体験学習、ボランティアによる慰問、保育園からのお遊戯会招待など交流ができています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員の意見を集約し、利用者の意向に沿ったお世話と地域とのふれあいを目指した事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や職員の目のつく場所(職員ステーション、パソコンの待ちうけ画面)に明示している。毎朝のミーティングや定期的な会議で理念を生きた方針として語っている。職員は理念を共有しながら、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。利用者と同覧板を届けたり、地域集落の運動会、デイサービスでの交流、小中学校の体験学習、ボランティアによる踊りの慰問、保育園からの遊戯会招待など交流ができています。ホームの畑で収穫した野菜を無人販売しようという案も検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	朝のミーティングや空き時間に全職員が自己評価について話し合っている。自己評価に取り組んだ結果、改善課題があがり、取り組みを期待したい内容欄に記載、職員の努力目標に繋げている。評価の項目を勉強課題に掲げ、話し合いすることがホーム運営向上に活かされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者・家族代表、民生委員、地域包括支援センター、介護支援専門員の参加を得て2ヵ月に1回開催している。事業所報告、利用者の日常報告、外部評価結果のコピー配布などを実施している。会議で出た意見(方言で接して欲しい、親戚・知人の面会の報告が欲しい)は、方言の勉強や面会の確認など改善し、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや町の担当者に質問、相談、助言を貰っている。介護認定の申請代行、生活保護者の報告もされている。運営推進会議前にホーム内や利用者の暮らしぶりを見てもらい、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヵ月に1回発行しているホーム便りでは職員の異動、利用者のホーム内での暮らしぶりを写真入で紹介し、一人ひとり、身体状況のコメントを書いて送付している。預かり金の報告は通帳のコピーを送付し、確認できている。病院受診結果は利用者の状況に応じて個々に電話連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。相談・苦情受付担当者や第三者委員を選任し、重要事項説明書やホーム内に明示している。運営推進会議で活発に意見が出され、それらを運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係が維持できるように努めている。やむなく人事異動をする場合はダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は年間研修計画を作成し、段階に応じた研修に参加し研修報告している。運営者による新人研修や介護未経験者などの職員は特別養護老人ホームでの実習を行なっている。また、資格取得にも積極的に支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区グループホーム協議会に加入している。研修会に参加し、他のグループホームと相互交流に努め情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学してもらい入居決定する時も本人の意思決定を尊重している。自宅からの入居は担当のケアマネージャーと一緒に自宅訪問し、ハード面・ソフト面・家族との関係など情報収集している。入居後も見守りや傾聴に努め、状況をこまめに家族に連絡している。また、入居前デイサービスに案内し、ゆとりと信頼のある場所で利用者の意向に沿った支援をし、なじんでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や日常の家事、季節の行事(もちつきや蕎麦うち)など利用者と職員は助け合いながら一緒に活動している。一人ひとりの生活暦や得意とすること(野菜つくり、昔話、方言)を教わったり、励まされたりの支えあう関係ができている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に沿うよう努めている。利用者の訴えや職員の気づきをもとに意見を出し合い、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態や生活暦、希望を把握し、家族の要望や思いを聞き、モニタリングや処遇会議で職員の気づきや意見を出して、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行い、入退院や利用者の状態に変化があった場合にはその都度見直し、計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望に応じて受診の付き添いや外出(自宅訪問、墓参り、お見舞い、理美容院)を柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、定期的に家族や職員が付き添って受診している。利用者個々の状況に応じて日頃の健康状態や食事量、体重の変化などを報告し、かかりつけ医より指示をもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時本人・家族に、重度化した場合の方針を説明している。状態変化時は医師も交えて治療方針を決定する。(医師の診断が在宅でとなればホームで看ることになる。)指針に対する同意書も取っている。全職員共有し、対応方法について話し合っている。常勤看護師、医療連携体制加算も取っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。回覧板用のホーム便りもプライバシーに配慮し、家族用を作成しなおしている。写真掲載については同意を得ている。また、守秘義務については職員採用時の誓約書もある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床や就寝時間、入浴やレクリエーションなど利用者の生活リズムに留意しながら本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。職員間の協調性を向上させ、支援の質を高めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人の栄養士が作成している。(日曜日はホームで利用者と考え、買い物まで一緒にしている。)職員は食材の下ごしらえ、後片付け、食器洗いなどできる方と行き、同じテーブルを囲んでサポートしながら楽しく食事をしている。食事中はテレビを消してBGMを流している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日毎に実施しているが希望があれば毎日でも支援している。時間は午後4時頃から入浴剤を使用し、香りを楽しみながら1対1で接し、会話も楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれに、無理強いすることなく自然に生活を通して役割ができています。全員参加を基本にドライブ、花見、外食に行くなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩、買い物を楽しんでいる。希望を聞いて自宅を見に行ったり、墓参りにも行っている。外庭の芝生で桜の季節にはお弁当やお茶にしたり、日光浴、ゲームなどして閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	隣接して同一法人の施設があり、敷地の周囲はネットフェンスで囲まれている。ホーム前は広い芝生庭があり、玄関には鍵をかけず、日中は自由に出入りできる。見守りを徹底し利用者の安全確保に努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に年2回(昼間、夜間)避難訓練を実施している。災害に対する備蓄、発電機など準備している。スプリンクラーの設置も予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックして一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせてキザミ食やお粥、スポーツドリンクなど取り入れている。栄養バランスは栄養士の献立を利用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は広く、清潔で換気も良く季節の花々が飾られて落ち着いた雰囲気漂っている。随所にテーブル、ソファや畳部屋などくつろげるスペースが確保され、利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド以外にテーブル、椅子が用意され一つの生活空間ができていて落ち着いた雰囲気が保たれている。安全を考慮し、ベッドをはずした畳の生活も支援している。利用者はなじみのものを持ち込み安心した生活を送っている。		